

出題分析		
試験時間 100 分	配点 200 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [ 減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加 ]		難易度変化 (昨年比較) [ 易化 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 難化 ]
<b>【概評】</b> 同志社大学の英語の大問構成にはここ数年大きな変化は見られない。I・IIは長文読解で英文の分量はどちらも3ページ程度、設問としては、空所補充、同義選択、内容一致等があり、下線部和訳がI・IIどちらかにある。大問IIIは会話文で、空所補充と1~2行程度の和文英訳が定番である。昨日に続き、本日の日程でも大問Iの語数が1,000語を超えた。全体として、英文自体および設問の難度は標準的であるが、英文のボリュームからすると、精度だけでなく相当のスピードが要求される。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「猫が隠しがちな痛みを AI を使って測定する試み」 ○ 語数：1059 語 (昨年) 831 語	猫が隠しがちな痛みを AI を使って測定する試みについて述べた文章。Dの語句整序では(か)に <b>whether</b> が入る。 <b>whether ~ or not</b> 「~か否か」で、「~」の部分が長くなる時は、 <b>whether or not</b> ~の語順になることがある。Fの下線部和訳では <b>not necessarily</b> 「必ずしも~というわけではない」が部分否定になることがポイント。	標準
II	長文読解 「批判的思考とは何か」 ○ 語数：855 語 (昨年) 954 語	「批評」をめぐる誤解を通して、批判的思考や批評的な論述とは何かを論じた文章。語彙レベルが高く、内容もやや難解だった。Bの同義語句選択の(a)の <b>shade</b> は「~を徐々に変化させる」という意味。Cの内容把握の(イ)は、波線部直後の文が波線部の内容の詳しい説明になっている。	やや難
III	会話文 「朝型と夜型のどちらが良いか？」 ○ 語数：531 語 (昨年) 524 語	朝型と夜型の友人同士が各々の生活リズムに関して会話をしている場面。Aの空所補充(h)は、直後でお互いに適した生活スタイルや活動時間を認める旨の話が続くので、それと同趣旨である選択肢5 <b>Just from different time zones, so to speak.</b> が入る。Bの英訳の「大変な」は、解答例の <b>terrible</b> の代わりに、英訳箇所直前にある <b>brutal</b> を用いてもよいだろう。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)												
大問 番号	設問数	選択式						記述式				
		空所 補充	同義 選択	内容 把握	語句 整序	内容 一致	その他	和訳	英訳	自由 英作	内容 (理由) 説明	その他
I	6	3	8	4	1	3/8		1				
II	5	3	8	4	1	3/8						
III	2	8							1			

※「選択式」および「記述式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数を表している。

#### 合格のための学習法

比較的難解な英文読解が中心を占める同志社大学の問題を攻略するためには、強靱な英文読解力を身につけなければならない。そのためには1学期の早い時期に英文を読むために必要な基本文法を身につけることが肝要になる。そしてそれと並行して辞書を引きながらじっくり英文を読むことを習慣づけるのである。ゆっくりでよいから文の構造と意味を正確に読み、文と文のつながりを理解することが重要である。正確に読めるようになれば、スピードは後からついてくる。焦らずコツコツと、日々の英文読解の訓練を楽しめる人間になることが合格への近道である。